

平成29年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名
	—	

問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

1. この問題集は、表紙を含めて**12枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四枝択一式**です。
4. **解答は**、各問題とも**一つだけ答案用紙の解答欄**に所定の要領ではっきりとマークして下さい。
5. **解答に当たり、適用すべき法令については、平成29年1月1日現在において施行されているものとします。**
6. 解答に当たり、地方公共団体の条例については、考慮しないことにします。
7. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます**(中途退出者については、持ち帰りを禁止します)。

〔No. 1〕 図A～Dに示す住宅とその設計者との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

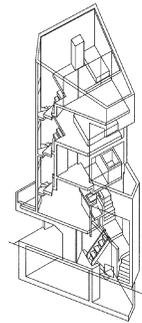
A. ファンズワース邸

B. サヴォア邸



C. シュレーダー邸

D. 塔の家



1. A —— ミース・ファン・デル・ローエ (Mies van der Rohe)
2. B —— ル・コルビュジエ (Le Corbusier)
3. C —— ヘリット・トーマス・リートフェルト (Gerrit Thomas Rietveld)
4. D —— 菊竹清訓

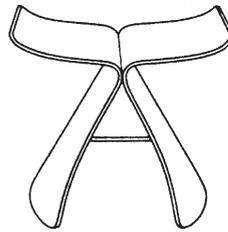
(注) No.1の図Aについては、著作権法上の関係から、掲載していません。

〔No. 2〕 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

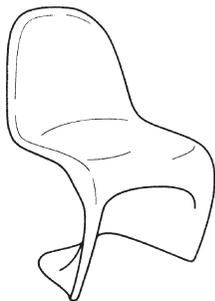
1. チャールズ・イームズ
(Charles Eames)



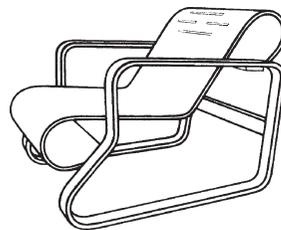
2. 柳宗理



3. ヴェルナー・パントン
(Verner Panton)



4. アルネ・ヤコブセン
(Arne Jacobsen)



(注)No. 2の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。

枝1 : 「インテリアの計画と設計」(彰国社発行、2006年)

枝2, 3, 4 : 「インテリア学辞典」(壁装材料協会発行、1995年)

〔No. 3〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フリーアドレスは、固定間仕切りを設けず、ローパーティション等を用いて、有機的にオフィスをレイアウトする手法である。
2. POE (post occupancy evaluation)は、設計された環境を占居する利用者にとっての有効性の検証であり、建物入居後評価や居住後評価とも言われる。
3. ファシリティマネジメントは、施設及びその環境を経営的視点から総合的に企画・管理・活用するための経営管理活動のことである。
4. モデュラーコーディネーションは、建築各部の寸法を調整して、建築物の設計や組立てのときに基本となる寸法が当てはまるようにすることである。

〔No. 4〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コーポラティブハウジングは、居住者が協同組合を設立し、各自の住まう住宅の企画、設計から入居、管理までを運営する方式である。
2. ケアハウスは、車椅子や訪問介護者を活用し、自立した生活を維持できるよう工夫された軽費老人ホームである。
3. リノベーションは、既存建築物を生かしつつ、時代の変化に合わせて新たな使用に耐えるよう性能を刷新することである。
4. グループホームは、居住者が家事や育児など日常生活の一部を共同で行う住まい方の形式である。

〔No. 5〕 次の「人間工学に関する用語」と「インテリア計画に関する事項」との組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. ポピュレーションステレオタイプ —— 窓に対するベッド配置(臥位^がの方向)の選択
2. ソシオフーガル —— 椅子の配置
3. 黄変化視界 —— 天井の高さ
4. サービス水準 —— ショッピングモールの通路の幅

〔No. 6〕 車椅子使用者に配慮した住宅の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. クロゼットのハンガーパイプの高さを、床面から120cmとした。
2. 洗面台に設ける垂直な鏡の下端の高さを、床面から90cmとした。
3. 和室の床面の高さを、隣接する洋室の床面から40cm高い位置とした。
4. コンセントの高さを、床面から30cmとした。

〔No. 7〕 環境・省エネルギーに関する用語の組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. CASBEE —— 建築環境総合性能評価システム
2. APF —— 空調エネルギー消費係数
3. BELS —— 建築物省エネルギー性能表示制度
4. LCA —— ライフサイクルアセスメント

〔No. 8〕 光環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 照度は、光を受ける面への入射光束の面積密度である。
2. 照明により物体の立体感を出すことを、モデリングという。
3. 人の目が光として感じることは、約380～780nmの波長の放射である。
4. 昼光率は、室内表面の反射率とは無関係である。

〔N o. 9〕 室内の温熱環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 我が国の夏至における終日の直達日射量は、南向きの窓より東向きの窓のほうが大きい。
2. 熱容量の大きい建築物においては、室温の変動が小さい。
3. ブラインドは、窓の室外側に設けるより窓の室内側に設けるほうが、日射熱の遮蔽効果が大きい。
4. 壁の内部に中空層を設けると、壁の熱貫流率が小さくなる。

〔N o. 10〕 空気環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 第3種換気方式は、室内への汚染空気の流入を防ぐのに適している。
2. 換気回数とは、室の1時間当たりの換気量を室容積で除した値である。
3. シックハウス症候群の原因の一つとされる新しい家具からのホルムアルデヒドの放散量は、室内の温度・湿度が高いほど多くなる。
4. 居室の必要換気量は、一般に、1人当たり30m³/h程度とされている。

〔N o. 11〕 防災設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 屋内消火栓設備は、火災時に手動操作により放水する消火設備であり、主に初期消火を目的に使用する。
2. 泡消火設備は、電気火災に対して有効な消火設備である。
3. 連結散水設備は、地階の火災の際、消火活動を容易にするため、消防ポンプ自動車から送水して天井又は天井裏の散水ヘッドから放出し、消火する設備である。
4. 非常コンセント設備は、消防隊が有効に活動を行えるように電力供給するための設備である。

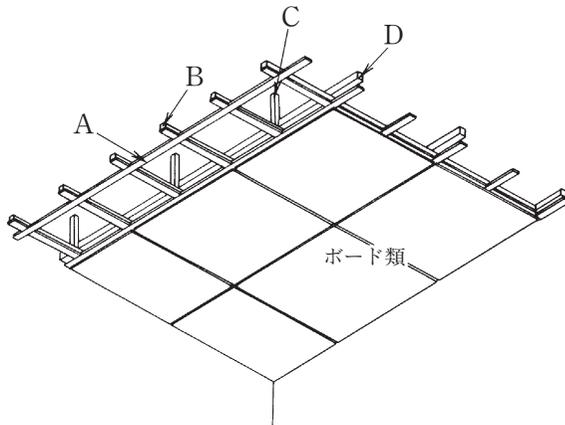
〔No. 12〕 建築設備に関する次の用語の組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. 全熱交換器 ————— 空気調和設備
2. 通気管 ————— 空気調和設備
3. さや管ヘッダ方式 ——— 給水設備
4. クロスコネクション ——— 給水設備

〔No. 13〕 床に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 束立て床は、木造軸組工法の1階に用いる床組で、束石の上に束を立てて根太を渡しかけ、その上に大引をかけて床を張る床組である。
2. 転ばし床は、床束を用いず、土間コンクリートなどの上に直接根太又は大引を敷く床組である。
3. フリーアクセスフロアは、オフィス等の床下配線を可能にするとともに、家具の平面レイアウト変更にも対応できる架構式床である。
4. 梁床とは、木造軸組工法の2階床組として多く用いられる形式で、床梁、根太などからなる。

〔No. 14〕 図に示す木製天井下地の部材A～Dとその名称イ～ニとの組合せとして、最も適切なものは、次のうちどれか。



- イ. 野縁
- ロ. 野縁受
- ハ. 吊木
- ニ. 板野縁

	A	B	C	D
1.	イ	ニ	ハ	ロ
2.	ニ	ロ	ハ	イ
3.	イ	ロ	ニ	ハ
4.	ニ	イ	ハ	ロ

(注)No.14の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
図の出典：「構造用教材」（日本建築学会発行、1995年）

〔No. 15〕 住宅の階段に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 回り階段の踏面寸法は、踏面の狭い方の端から200mmの位置において測るものと規定されている。
2. 階段の有効幅は、手すりを含めない寸法で、750mm以上とすることができる。
3. 階段の天井高は、階段の勾配に直角に2,100mm程度の高さを確保することが望ましい。
4. ささら桁階段は、側桁を用いずに、のこぎり刃状の桁で段板を支える形式で、蹴込み板を取り付けない場合もある。

〔No. 16〕 建具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フラッシュ戸は、下地骨の上からその両面を平らな面材で張り上げた構造の戸である。
2. 額縁は、窓や出入口の枠と壁仕上げ材料の納まりのために、枠回りに取り付けられる化粧材である。
3. 押縁は、建具の^{かまち}枠や棧に、ガラスや薄いパネルを留め付けるために用いる細長い部材である。
4. オートヒンジは、開き戸を軸吊りするための「軸吊金物」で、重い扉に適している。

〔No. 17〕 壁紙に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ビニル壁紙は、ポリ塩化ビニルを主素材とし、プリント・エンボス・発泡を施したものなどがある。
2. 紙壁紙は、天然繊維、合成・再生繊維等を主素材とした壁紙である。
3. 木質系壁紙は、チーク、スギなどの単板を紙、塩化ビニルシートなどで裏打ちしたものなどがある。
4. 無機質系壁紙は、ひる石の細粉を紙に散布接着したものや、金属箔を紙で裏打ちしたものなどがある。

〔No. 18〕 ブラインド・シェードに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ベネシャンブラインドは、折りたたみによる上下開閉式のもので、生地は不燃布を加工したものが多く。
2. パーチカルブラインドは、水平なレールに多数の細長いルーバを下げて、角度調整や開閉をできるようにしたものである。
3. ロールスクリーンは、一般に、布製のスクリーンを巻き上げて開閉するものであり、布地の素材・色・柄の特徴を出しながらフラットでシンプルなイメージを作ることができる。
4. ローマンシェードは、布をたくし上げて上下に開閉するもので、多様なスタイルがあり、布地の特徴を生かした空間を演出できる。

〔No. 19〕 畳に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 畳床たたみどこは、稲わら畳床、稲わらサンドイッチ畳床、建材畳床に大別される。
2. 畳寸法は、本間(京間)、三六間(中京間)、五八間(江戸間)が標準寸法として規定されている。
3. 畳縁たたみべりは、畳の表層に張る敷物で、乾燥したいぐさをよこ糸にし、麻糸や綿糸などをたて糸にして織り上げたものである。
4. 頭板かしらいたは、畳の角を整え、隅の崩れを防ぐために、畳床と畳表の間に挿入して縫い付ける薄板である。

〔No. 20〕 椅子の機能・構造に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. スタッキングチェアは、積み重ねのできる椅子であり、収納や保管の際に省スペース化が図れる。
2. フォールディングチェアは、折りたたみ椅子であり、脚がX型に交差し、座面がたたまれたり、立ち上がったたりして折りたたまれるものが多い。
3. ギャングチェアは、高さが調節できる椅子であり、ガススプリング式のものが多い。
4. カンチレバーの椅子は、片持ち梁による構造で、片側2本の脚で荷重を支える構造の椅子であり、強度や弾力性に優れるスチールパイプを脚に用いる場合に適している。

〔No. 21〕 照明に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 光天井照明は、天井の全面又は一部に拡散透過性のある素材を用い、その上部に光源を配置し、天井面を光らせるようにする照明方式である。
2. ルーバ天井照明は、天井の全面又は一部にルーバを張り、その上部に光源を配置した照明方式である。
3. タスク・アンビエント照明は、個々の作業域を照らすタスク照明とその周辺に対するアンビエント照明とをバランスよく組み合わせる照明方式である。
4. コーブ照明は、幕板状の天井回り縁の内側に光源を隠して、壁面やカーテンなどを照らす照明方式である。

〔No. 22〕 空調の吹出し口の分類とその型式名称との組合せとして、**最も不適当なもの**は、次のうちどれか。

1. ふく流吹出し口 —— アネモ型
2. 軸流吹出し口 —— ノズル型
3. 線状吹出し口 —— パン型
4. 面状吹出し口 —— 多孔天井パネル型

〔No. 23〕 排煙に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高層建築物の下層階で自然排煙の排煙口を開放した場合、冬期の暖房時には煙突効果により外気が排煙口から流入するおそれがある。
2. 排煙ダクトが防火区画の壁を貫通する場合、その排煙ダクトの貫通部ではなく、接続する排煙口に防火ダンパーを設ける必要がある。
3. 自然排煙においては、排煙能力を高めるため、排煙口はできるだけ高い位置に設け、給気口は低い位置に設けることが望ましい。
4. 天井チャンバー機械排煙方式では、防煙区画毎に天井裏を不燃材料で区画し、その直下の天井面に25cm以上の防煙壁を設ける。

〔No. 24〕 建築物の防火・避難計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 安全区画となる廊下は、不燃材料の間仕切壁で居室と区画し、当該廊下に面する扉には自動閉鎖機構のあるものを設ける。
2. 避難口に通じるドアの取手は、回転式ではなくパニックバーとする。
3. エスカレーター周りは、防火防煙シャッターで区画するとともに、乗降口以外の部分はガラススクリーンを併設する。
4. 吹抜け周りの手すりは、防火防煙シャッターの降下位置よりも吹抜け側に設ける。

〔No. 25〕 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シーリング材は、高温多湿や凍結温度以下とならない、かつ、直射日光や雨露の当たらない場所に密封して保管した。
2. 巻いた壁紙は、くせが付かないように、立てて保管した。
3. 板ガラスは、振動等による倒れを防止するため、屋内に平置きにして保管した。
4. フラッシュ戸は、破損・ねじれ・ひずみを生ずることのないように、平積みにして保管した。

〔No. 26〕 軽量鉄骨下地の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、天井は特定天井及びシステム天井ではないものとする。

1. 軽量鉄骨壁下地において、スタッドを上下ランナーに差し込み、半回転させて取り付けた。
2. 軽量鉄骨壁下地において、せっこうボード1枚張りとする場合のスタッドの間隔は、450mm程度とした。
3. 水平な軽量鉄骨天井下地において、天井のふところが1,800mmであったので、補強用部材を用いて、吊りボルトの水平補強、斜め補強を行った。
4. 軽量鉄骨天井下地において、天井に段違いがある箇所については、下がり天井の野縁受に、2,700mm程度ごとに、振止め補強材を溶接で固定した。

〔No. 27〕 内装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フローリングボードを下地板の上に張る際に、特記がなかったので、ボード厚の2倍の長さの釘を用いた。
2. せっこうボードの重ね張りを行う場合、上張りボードと下張りボードとのジョイント位置が同位置にならないように留め付けた。
3. 薄手の壁紙を上張りする際に、陰影の生じない方向に10mm程度重ねて張り付けた。
4. 塩化ビニル樹脂系の床シートの接合部を熱溶接工法によって処理する場合、圧着する力がかかりやすいように、接合部に床シート厚の $\frac{2}{3}$ の深さのV字形の溝を設けた。

〔No. 28〕 張り石工事に關する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 屋内の床に、湿式工法で大理石を取り付ける際に、300mm角で厚さ20mmのものを用了。
2. 内壁空積工法において、平面的に長い大壁だったので、伸縮調整目地を12mごとに設けた。
3. 内壁空積工法において、取付け代として、石材の裏面とコンクリート躯体との間隔を40mmとした。
4. 石材の取付けにおいて、内壁の高さが3.5mだったので、内壁空積工法を採用した。

〔No. 29〕 日本工業規格(J I S)における電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1.  —— 壁付電話用アウトレット
2.  —— 電話機形インターホン親機
3.  —— 電熱器
4.  —— 誘導灯

〔No. 30〕 各種工事とそれをを用いる工法・施工機器・工具との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. シーリング工事 —— グレイジングマシン
2. カーペット工事 —— グリッパー
3. 石工事 ————— びしゃん
4. タイル工事 ————— ヴィブラート

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(旧四会)連合協定「工事請負契約約款」(平成28年3月改正)に照らして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 受注者は、監理者の処置が著しく適当でないと認められるときは、その理由を明示した書面をもって、発注者に対して異議を申し立てることができる。
2. 受注者は、この契約を締結したのち速やかに請負代金内訳書を監理者に提出し確認を受ける。
3. 受注者は、発注者及び監理者立会いのもと、法定検査を受け、この場合において、発注者は、必要な協力をする。
4. 発注者又は監理者は、工事用図書のとおりを実施されていない疑いのある施工について、必要と認められる相当の理由があるときは、その理由を受注者に通知のうえ、必要な範囲で破壊してその部分を検査することができる。

〔N o. 32〕 材料とその標準的な表面処理・仕上げとの組合せとして、**最も不適当なもの**は、次のうちどれか。

1. アルミニウム ————— 陽極酸化塗装複合皮膜
2. ステンレス ————— ヘアライン
3. セっこうボード ———— 2液形ポリウレタンワニス塗り
4. コンクリート ————— モノリシック

〔N o. 33〕 断熱材に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材は、透湿性が高い。
2. A級インシュレーションボードは、木材などの植物繊維を成形した繊維板であり、主に屋根下地や床下地の断熱用として用いられる。
3. 断熱材は大別すると、発泡プラスチック系、無機質繊維系及び木質繊維系に分類される。
4. 現場発泡の吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材は、接着性(自着性)があるので、接着剤が不要である。

〔N o . 34〕 建築材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フローリングボードは、1枚のひき板を基材とした単層フローリングであり、直張り又は根太張り用として用いられる。
2. エポキシ樹脂系塗床材は、耐薬品性に劣るが、耐候性に優れる。
3. 内装工事に用いる単板積層板(LVL)、パーティクルボード及びMDFには、ホルムアルデヒドの放散量に関する規定が設けられている。
4. ウレタン樹脂系塗床材は、耐摩耗性に優れる。

〔N o . 35〕 次の行為のうち、建築基準法上、全国どの場所においても、確認済証の交付を受ける必要があるものはどれか。

1. 鉄筋コンクリート造平家建て、延べ面積200m²の事務所の大規模の模様替
2. 鉄筋コンクリート造2階建て、延べ面積300m²の下宿から寄宿舍への用途の変更
3. 鉄骨造平家建て、延べ面積200m²の自動車車庫の建築
4. 鉄骨造3階建て、延べ面積300m²の倉庫における床面積10m²の増築

〔N o . 36〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 病院の病室には、非常用の照明装置を設けなければならない。
2. 建築物の高さ31m以下の部分にある3階以上の階には、原則として、非常用の進入口を設けなければならない。
3. 屋内に設ける避難階段の階段室の屋内に面する壁に窓を設ける場合においては、その面積は、各々1m²以内とし、かつ、所定の防火設備ではめごろし戸であるものを設けなければならない。
4. 排煙設備を設けるべき建築物においては、排煙口が防煙区画部分の床面積の $\frac{1}{50}$ 以上の開口面積を有し、かつ、直接外気に接する場合を除き、原則として、排煙機を設けなければならない。

〔No. 37〕 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法に**適合しない**ものはどれか。ただし、いずれの場合も自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当せず、また、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 木造2階建て、延べ面積90m²の住宅の一部が自動車車庫(当該用途に供する部分の床面積の合計が15m²)である場合、自動車車庫の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
2. 木造2階建て、延べ面積90m²の住宅(主要構造部は耐火構造でないものとする。)において、2階に火を使用する設備を設けた台所の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
3. 内装の制限を受ける4階建ての事務所において、居室から地上に通ずる主たる廊下、階段の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを、準不燃材料とした。
4. 屋内に設ける避難階段の階段室の天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料とし、かつ、その下地を不燃材料で造った。

〔No. 38〕 建築設備等に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っている**ものはどれか。ただし、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 建築物に設けるエスカレーター(特殊な構造又は使用形態のものを除く。)は、通常の使用状態において人又は物が挟まれ、又は障害物に衝突することがない構造とし、勾配を30度以下としなければならない。
2. 避雷設備は、原則として、建築物の高さ20mを超える部分を雷撃から保護するように設けなければならない。
3. 事務所の用途に供する建築物において、発熱量の合計が6kwのこんろ(密閉式燃焼器具でないもの)を設けた調理室には、換気上有効な開口部を設けた場合であっても、所定の換気設備を設けなければならない。
4. 非常用の昇降機の乗降ロビーの天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを準不燃材料でし、かつ、その下地を準不燃材料で造らなければならない。

〔No. 39〕 防火区画に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、また、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 主要構造部を準耐火構造とした3階建て、延べ面積200m²の一戸建ての住宅は、1階から3階までの直通階段の部分とその他の部分とを防火区画しなくてもよい。
2. 主要構造部を準耐火構造とした3階建て、延べ面積200m²の一戸建ての住宅の一部が自動車車庫(当該用途に供する部分の床面積の合計が50m²)である場合、自動車車庫の部分とその他の部分とを防火区画しなくてもよい。
3. 主要構造部を耐火構造とした映画館の客席部分は、その床面積の合計にかかわらず防火区画しなくてもよい。
4. 主要構造部を準耐火構造とし、3階以上の階に居室を有する事務所は、吹抜きとなっている部分とその他の部分とを準耐火構造の床若しくは壁又は特定防火設備で区画しなければならない。

〔No. 40〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 一戸建ての住宅に設ける階段の蹴上げ及び踏面の寸法は、延べ面積の大きさにかかわらず、それぞれ23cm以下及び15cm以上とすることができる。
2. ふすま、障子その他随時開放することができるもので仕切られた2室は、居室の採光の規定の適用については、1室とみなす。
3. 学校における床面積70m²の教室には、所定の換気設備を設けない場合においては、換気のための窓を設け、その換気に有効な部分の面積は、3.0m²以上とする。
4. 長屋の各戸の界壁は、小屋裏又は天井裏に達するものとするほか、その構造を遮音性能に関して政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。

〔No. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、**誤っている**ものはどれか。

1. 地上4階建て(高さ20m)の博物館で使用する展示用の合板は、防災物品でなければならない。
2. 地上2階建て(高さ6m)の幼稚園で使用するカーテンは、防災物品でなければならない。
3. 地上12階建て(高さ40m)の事務所で使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。
4. 平屋建て(高さ4m)の飲食店で使用するじゅうたんは、防災物品でなければならない。

〔No. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で**足りる**ものはどれか。

1. キャバレーから飲食店に変更
2. 公衆浴場から老人デイサービスセンターに変更
3. 共同住宅から事務所に変更
4. 倉庫から展示場に変更

〔N o. 43〕 消防用設備等に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

1. 非常警報設備の起動装置は、多数の者の目にふれやすく、かつ、火災に際しすみやかに操作することができる箇所に設けなければならない。
2. 特定施設水道連結型スプリンクラー設備は、所定の量以上の量となる水量を貯留するための施設及びこれに連結する加圧送水装置を設けなければならない。
3. 屋内消火栓設備を設置しなければならない防火対象物又はその部分の延べ面積又は床面積を、所定の数値の2倍又は3倍の数値とするために壁の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とする範囲は、回り縁、窓台その他これらに類する部分を除いた部分とする。
4. 誘導灯の周囲には、誘導灯とまぎらわしい又は誘導灯をさえぎる灯火、広告物、掲示物等を設けてはならない。

〔N o. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」では、特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事であって、当該解体工事に係る部分の床面積の合計が50m²以上のものの受注者は、正当な理由がある場合を除き、分別解体等をしなければならない。
2. 「都市の低炭素化の促進に関する法律」では、「低炭素建築物」とは、二酸化炭素の排出の抑制に資する建築物であって、所管行政庁の認定を受けた低炭素建築物新築等計画に基づき新築又は増築、改築、修繕若しくは模様替若しくは空気調和設備その他の建築設備の設置若しくは改修が行われ、又は行われたものをいう。
3. 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、汚泥、廃プラスチック類は、「産業廃棄物」に該当する。
4. 「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」では、所管行政庁により長期優良住宅建築等計画の認定を行うことができる住宅の規模は、原則として、一戸建ての住宅の場合は床面積の合計が75m²以上である。

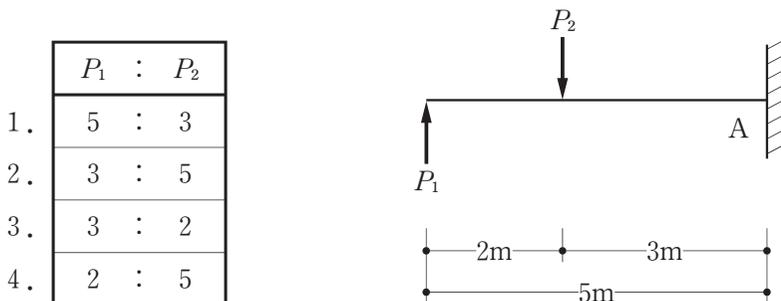
〔No. 45〕 次の医療・福祉施設と用語との組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. 病院 ————— スタッフステーション
2. 診療所 ————— レファレンスルーム
3. 高齢者福祉施設 ——— 機能訓練室
4. 障害者福祉施設 ——— 授産(作業)室

〔No. 46〕 集合住宅の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 中廊下型は、日照条件を考慮すると、住棟を東西軸に配置することが望ましい。
2. スキップフロア型は、共用廊下を介さずに、外気に接する2方向の開口部を有する住戸を設けることができる。
3. メゾネット型は、各住戸が2層以上で構成された住戸形式で、一般に、専有面積の小さな住戸には適さない。
4. 接地型におけるコモンアクセスは、共用庭に接したアクセス路を通して各住戸に入るの、居住者同士の交流を促しやすい。

〔No. 47〕 図のような荷重を受ける片持ち梁において、A点に曲げモーメントが生じない場合の荷重をそれぞれ P_1 、 P_2 としたとき、それらの比($P_1 : P_2$)として、正しいものは、次のうちどれか。



〔No. 48〕 建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の耐震性能を高める構造計画には、構造物の強度を大きくする考え方と構造物の変形能力を大きくする考え方がある。
2. 鉄筋コンクリート造の建築物において、ある階の耐力壁の壁量は、その上階の壁量と同等以上となるように考慮して配置する。
3. トラス構造は、各構面内が三角形で構成され、一般に、各節点が剛に接合されている構造である。
4. 水平力に対する剛性は、一般に、建築物の高さが同じであれば、鉄骨造の建築物より鉄筋コンクリート造の建築物のほうが大きい。

〔No. 49〕 木造住宅における設備工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 給湯管には、水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管を使用した。
2. 電気のスイッチボックスは、メタルラスに接しないように、合成樹脂を用いて絶縁した。
3. 雨水用の排水ますは、その底部に深さ20cmの泥だめを有するものとした。
4. LPガス(プロパンガス)のガス漏れ警報器は、その下端が天井面から下方30cmの位置となるように取り付けた。

〔No. 50〕 コンクリートを下地とした左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート壁面にモルタル塗りを行う場合、下塗りには、上塗りに比べて富調合のモルタルを用いた。
2. セメントモルタル塗りにおいて、1回に練り混ぜるモルタルの量は、60分以内に使い切れる量とした。
3. せっこうプラスター塗りにおいて、セメントモルタルによる下塗りが半乾燥の状態のうちに、既調合プラスターによる中塗りを行った。
4. 屋内の床面のセルフレベルング材塗りにおいて、流し込み後、硬化するまでの間は窓や出入口をふさぎ、その後は自然乾燥とした。